はじめに

公立千歳科学技術大学
理事長・学長　宮永喜一

令和 2 年 4 月 7 日より、政府によって、首都圏や大阪府、兵庫県、福岡県などに新型コロナウィルス感染症緊急事態宣言が発出され、4 月 16 日からは、全国に拡大され、新型コロナウィルスに対する徹底的な対策が取られることとなりました。現時点でも、いまだに新型コロナウィルスの影響は大きく、その対策が実施されています。

令和 2 年度は、この新型コロナウィルス感染症に、大きく影響の受けた教育・研究活動を強いられる、まさしく、前代未聞の年となりました。

新入生にとっては、大きな希望をもって、新しい学問や、これからの科学技術を学ぶことのできる、新たなる環境の始まりであったにもかかわらず、そのマイルストーンである、入学式が中止。授業のほとんどが、オンライン化となり、期待外れの状況となってしまいました。

本学は、すでに対外的な教育活動において、e ラーニングシステムを導入しており、限定された科目ではありますが、国内の大学間連携による e ラーニング協議会の運営や、千歳市・北海道教育委員会との連携による小中高校向けの e ラーニングコンテンツの提供などを進めていました。それらの経験を活かし、令和 2 年度では、4 月の新学期早々、大学内のすべての授業のオンライン化を進め、大学院を含む、すべての学年において、授業のオンライン化を実施しました。特に、第 2 学期（令和 2 年度後期、秋学期）において、対面型授業とその授業をネットワークで実時間配信し、自宅でも同時受講できるような方式（ハイフレックス型授業）を導入し、可能なすべての授業に適用することで、コロナ禍で通学が難しい状況の学生は自宅から、可能な学生は大学で講義を受講する形で、運用を行いました。このように、令和 2 年度は、可能な限りの感染症対策と学習機会の獲得を同時に実施し、多くの授業で、適切な運用ができたと考えています。但し、研究活動への影響は小さくなく、国内外において、多くの学会活動は制限され、開催したとしてもオンラインによる会議などに限定されました。

本学は、令和元年度から公立化したばかりです。長年積み上げてきた千歳市との強固な地域連携に加え、未来に向けた新しい教育の構築や、異分野連携に基づく研究力の向上、国際連携の強化によるグローバル化の推進などが計画され、それらに向かっての議論が進められています。これらに並行して、新型コロナウィルス感染症という世界的な脅威を背景に、ハイフレッククス型を含むオンライン教育や、テレワークに基づく共同研究活動、バーチャル国際会議など、有効性の検証などは、これからではありますが、令和 2 年度には、すでに本学が主体で実施を進めています。

公立大学として、まだ始まったばかりではありますが、複雑であっても、多様性のある内容で、様々なアクセス、チャンネルを用いた、新しい教育・研究活動が推進・加速されるものと感じています。今後も教職員一丸となって教育、研究、地域貢献に邁進してまいりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。